

1 学校として目指す授業

学習者主体の授業（児童が自らの課題を意識し自己調整力を発揮できるようにする。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を意識した授業を行う。）

2 児童の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校 6 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語、算数、理科の3教科いずれも平均正答率が都・国を上回っていた。 ・国語で都の正答率を下回ったのは「意図に応じて話の内容を捉える」問題、「目的に応じて文章と図表など必要な情報を見付ける」問題であった。目的を明確にして、必要な情報を捉えることや伝えることの根拠を明確にして書くことを意識させることが重要だと考える。 ・算数では「割合」を求める問題に苦手意識があることが読み取れた。数学的な用語や表現について、知識の習得と習得した知識を活用する活動を往還して理解を深めることが必要だと考える。	・自分にはよいところがあると回答している児童の割合が、全国・都の平均と比較して高い傾向が見られる。一方で、自分と違う意見について考えるのは楽しいと考える児童の割合は低い傾向が見られる。 ・ICT機器、タブレットの活用が、自分の勉強に役立っていると感じている児童が多く、実際に学習に活用している割合も多い。

（２）その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した学習方法を模索する中で、児童アンケートを年2回（1学期、3学期）実施し、子どもたちの学びに関する意識の変容を検証している。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・いずれの教科においても、知識の習得はもちろん、習得した知識を活用したり、表現したりする力、思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための授業改善が必要である。正答率は比較的高いが、習熟度の低い児童も多くいることを踏まえ、個別最適な学びを重視し、協働的な学びとの一体的な充実を図りながら、更なる学力向上を目指していくことが課題である。  
・学習に前向きに取り組んでいる児童は多い。一方で表現したり、判断したりする活動には後ろ向きな姿勢を見せる児童も多いため、自信をもって発言・発信していけるような指導が必要であると考ええる。

4 学校全体の授業改善の視点

・自ら考え、学ぶ児童の育成（自律した学習者の育成）  
・自分の思いを進んで伝えあう児童の育成

【授業改善推進プランの活用法】

①「1 学校として目指す授業」を設定する。  
※学校経営方針との関連を確認すること。

②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。

③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。

④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。

⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。

⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。  
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	自ら考え、学ぶ力を養うために、自分の考えをもてるよう、教科書等を活用して例を示すようにする。自分の考えを発表したり質問や感想を伝えたりする活動を多く設定する。				学ぶ土台として、具体物の活用などを通して、計算や数の仕組みなど基本的な事項を確実に身に付けさせる。自分の考えをペアで伝え合う活動を設定し、伝え合う力を養う。				実生活と学校での学びをつなぐために、国分寺学等を通して、体験して感じたことや考えたことを、共有する活動を意図的・計画的に設定する。		少人数グループで活動を行い、基礎的な部分や表現の工夫を話し合う場面を意図的に設定する。		一人ひとりの児童の気付きを交流し合う場面を意図的に設定し、見方や感じ方を広げていけるようにする。				楽しく遊ぶことを土台として、児童同士で動きの良い所を見付け、伝え合い、自分の動きに生かせるような活動を意図的・計画的に設定する。				安心して自分の考えを伝えられるようにするために、全体で話し合う前にペアや小グループで考えを伝え合う場面を設定する。	
中学年	自分の考えをもち、必要感をもって伝え合えるように、話し合いの場面を設定する。そのうえで、叙述に即して考えを深められるようにする。		自分が資料から気付いたことや読み取ったことを、共有したり伝え合ったりする時間を意図的・計画的に設定する。		基礎的知識の定着を土台として、検討の場面では、協働的な学びを促す手だてを設定する。まとめや振り返りの時間を大事にする。		実験などを通して、予想や考察を文章や絵で表現できるようにする。また、考え、表現したことを共有したり伝え合ったりする時間を設定し、考えの幅を広げられるようにする。				音楽で気付いたことや感じたことなどを、ペアやグループで伝え合う場面を設ける。また、表現の工夫ができるよう、少人数の活動を意図的に設定する。		形や色などの感じを基にイメージしたことを伝え合う場面を意図的に設定し、表現に生かしたり発展させたりできるようにする。				学習課題に対して、自分の思いや願いから一人ひとりがめあてをもち、自己の課題を解決するために、協働的に学べるような場面を意図的・計画的に設定する。				主題に対して多面的・多角的に考えられるように、教材の特性に合わせた手立ての工夫を行う。自分の考えをもち、共有したり伝え合ったりする場面を意図的・計画的に設定する。	
高学年	自分の考えをもち、話し合いの目的を明確にして活動する。ICTを交流手段として活用することで、互いにすんで伝え合おうとする態度や力を養う。		資料から読み取ったことや調べたことをペアやグループで共有したり伝え合ったりする。事実から深い学びにつながるように考察する力を高めていく。そのために個に合った資料を複数用意する。		学び合いの時間を意図的に確保することによって、多様な考え方を身に付けさせ、自分の考えを深められるようにする。全員に基礎・基本の力を身に付けさせる。		考えの根拠をもって仮説を立てることで、実験の見通しをもち、予想と結果を比較できるようにする。考察の場面では、実験結果から考えられることを文章で表現し、共有する活動を設定する。				自らの課題を考え、それに向かって解決する場面を設ける。また、思いや意図をもち、主体的に表現する工夫ができるように少人数の活動を設定する。		形や色などの造形的特徴を基にイメージしたことを伝え合う場面を意図的に設定し、新しい自分のイメージをつくりだすなどの展開につながるようにする。		学習内容に対して、課題を見出し、その課題を解決するための方法を考えられるように教材を工夫する。考えや意見を伝え合う場面を意図的・計画的に設定し、深い学びにつながるようにする。		運動に対して、学習内容を捉え、課題解決に向けて自己決定・自己選択できるような場面を設定し、仲間とともに技能を高めたり、思考を促したりできるようにする。		基礎的な知識の定着を土台として、交流し合うスモールトークを積極的に取り入れる。また、目的をもって自分の思いや考えを伝え合えるような場面やゴールを設定する。		主題に対して、既習事項を活用しながら多面的・多角的に捉えられるよう、意見を共有する。ICTを活用しながら小グループや全体での議論する場を意図的に設定する。	